長崎国際大学 学長
潮 谷 義 子
Shiotani Yoshiko

今や日本の総人口に占める高齢人口の割合は23.4%に達し、2055年には40.5%に達すると予想されています。このような状況下にあって高齢者は日常生活や介護、緊急時に頼れる人が身近にいない等の理由から、健康不安、あるいは孤独や消費トラブル、詐欺や恐喝、虐待等、新聞や報道から暮らしの安全・安心が脅かされていると感じている人たちが増加しています。また、終の棲家として、特別養護老人ホーム利用を考えている人たちが42万人待機しているとも指摘されています。その一方で、高齢者の7割強が、現在住んでいる住居や地域で住み続けたいと願っていることも事実です。

こうした現状の克服には、医療、福祉、介護、予防、住宅や見守り、日常的な健康の維持のための支援がシームレスに提供されることが求められています。

この度の戦略 GP 選定取組「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」プログラムは、実に理に適い、時宜に適った先進的な取り組みであったと評価しています。

特に、大学、専門性職種の垣根を越えた協働、連携は相互的な学び、各々の専門性の相違と共通して取り組むことによって得られる尊厳ある人間理解と全人的ケア実践の豊かさを深めたことになったと思います。

また、学年早期からの体験学習も各々の理論を深めていくために必要とされている学びの大切さを身をもって痛感させたことでしょう。良い成果が得られたことを確信します。

少しだけ申し上げたい点があります。それは、在宅支援の視点には「福祉」領域との連携が不可欠です。この福祉の領域が連携からこぼれ落ちていたことは残念でした。

しかし、さはさりながら、この3年間、文部科学省の支援、ご指導下さいました教職員、多くの多種多様な応援団に支えられつつ、良い成果が得られたことに心からお礼を申し上げます。

潮谷 義子